特別支援学級（国語科）学習指導案

１　学級について

本学級は知的障がい学級で、4 年男子 1 名が 3 年生から在籍している。国語・算数は特別支援学級で学習しているが、他教科は交流学級で学習しており生活のベースは交流学級である。

絵が得意であり、整った文字を書く。作業も早く、書字のスピードもある。自分に関する出来事を発表することを好み、家庭での出来事などをよく話す。体を動かすことが大好きで、休み時間は友達とサッカー等をして活発に活動している。文章を読んで理解することに困り感があり、時には指示されていることの意味が分からないのか、周りの様子を見てから行動する場面も見られる。失敗することや間違うことを強く気にする。

そこで日頃の学習は、安心して取り組めるように、また、集中力や注意力が持続できるようにゴールを示し、1 時間の学習の流れをパターン化して行っている。

２　単元名　登場人物の気持ちを考えよう

教材名　　「ごんぎつね」　　（東京書籍４年下）

３　単元について

（１）　児童について

観　点	実　態　等
学習活動の経緯	・「ヤドカリとイソギンチャク」では、挿絵や叙述をもとに実験や観察の問いと答えを対応させた絵を描くことで段落ごとの関係を考えることができた。 ・「走れ」では、場面ごとの挿絵を自分で描き、登場人物の気持ちとその根拠を話し合いながら物語の大体の内容や気持ちの変化をつかむことができた。 ・「広告と説明書を読みくらべよう」では、説明文の主語述語を見つける過程で「広告」と「説明書」の目的や役割を考えた。また、手作りおもちゃの取りあつかい説明書を書くために、実際に手づくりおもちゃで遊ぶ活動を取り入れることで、取りあつかい説明書の目的や役割を具体的につかむ学習をしてきた。 ・学習したことを発表する機会を設定し、成就感を持たせることができた。
読み取りの状況	・繰り返し練習することで、文章をすらすら読むことはできる。 ・読んだことが内容として理解されたり記憶に残ったりすることが少ない。 ・物語文の情景を読み取ることは難しい。 ・段落ごとの関係は教師と一緒に話し合いをしながら学習した。

（２）単元で身につけたい力

特別支援学校小学部学習指導要領において、知的障がいである児童に対する教育を行う特別支援学校の国語における目標は「日常生活に必要な国語を理解し、伝え合う力を養うとともに、それらを表現する能力と態度を育てる」とある。児童は、読み取ることに困り感をもっている。よって、主述の関係に気をつけて読み、物語文や説明文の大体の内容をつかんで話すことを個別の指導計画の目標としている。

主述の関係に気を付けて読むことは、日常生活の国語を理解する上での助けになると考えた。また、物語文や説明文の大体の内容をつかんで話すことは、表現する能力と態度を育てることにつながると考えた。

そこで、登場人物が主語になっている文や挿絵から、登場人物のしたことを見つけさせ、登場人物のしたことを動作化する中で、登場人物の気持ちを考えさせる。ふかめる段階で、

挿絵とペープサートで登場人物のしたこととその時の気持ちを発表することで、物語文の大体の内容をつかませたい。

以上のことから、単元で身につけたい力を次のように考えた。

○登場人物のしたこととその時の気持ちを発表する力

（３）指導にあたって

授業は１単位時間を区切り、パターン化して進めている。学習の始まりは、前日に家庭学習で練習してきた漢字の５問テストで授業への集中を高めたい。課題に向けての学習後、児童の気に入っている自分のことの「お楽しみの発表」や「部首かるた」を位置づけることにより意欲の持続を図りたい。

学習内容を忘れたり整理しきれなかったりすることがあるので、各場面の登場人物のしたことと気持ちを考える文章を少なくしたり、色分けしたりと視覚的にわかりやすいようにしたい。また、学習計画を掲示し毎時間確認することで意欲と達成感につなげたい。

読み取ることに困り感のある児童にとっては物語文を読み取ることは難しいことであり、意欲も下がり気味である。そこで、製作活動や動作化することで意欲を持たせたい。また、「ポンポンロケットを１年生に広めよう」というめあてで、「ポンポンロケットの取りあつかい説明書」を書いて、１ 年生に発表しているので、今回は、「ごんぎつねのお話を教えよう」というめあてで意欲を持たせながら学習に取り組ませたい。

具体的には、以下のように進めていきたい。

○教材文と挿絵から、お話の順序を確かめさせる。
○教材文と挿絵から、挿絵ごとに登場人物のしたことを見つけさせる。
○登場人物のしたことを動作化する中で、気持ちを考えたり言葉の意味をつかませたりして、場面ごとの大体の内容をつかませる。
○挿絵とペープサートを使って登場人物のしたことと気持ちを発表することで物語の大体の内容をつかませる。
○ごんぎつねのお話を挿絵とペープサートで１年生に教える。

４　単元指導計画

（１）　単元の目標と評価

単元の目標	登場人物のしたことと気持ちを発表することができる。		
評価規準	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語活動
	登場人物のしたことと気持ちを意欲的に発表している。	登場人物がしたことの文を見つけ、気持ちを話している。	登場人物のしたことを動作化している。

（２）　学習計画（全１２時間）

時		ねらい	学習内容	主な支援	主な評価規準
つかむ	1	学習の見通しを持つことができる。	学習計画を立てる。	１年生に「ごんぎつね」のお話を教えたいという思いを持つことができるように、学習計画の表を工夫する。	【関】１年生に「ごんぎつね」のお話を教えたいという思いを持っている。
わかる	2	お話の順序を知ることができる。	挿絵をもとにお話の順序を考える。	ばらばらにおかれた挿絵をお話に合わせて並べられるように、ごんがしていることを挿絵をもとに考えたり、叙述で確かめさせ	【読】挿絵をお話の順序に並べている。

				たりする。	
	3	ごんの境遇と性格を話すことができる。	ごんがどんなきつねか考える。	ごんがどんなきつねか考えをもつことができるように、挿絵や挿絵に合う叙述をもとに考える。	【読】ごんが一人ぼっちの小ぎつねで、いたずらばかりしていたことを話してる。
	4	うなぎを首にまきつけたままにげるごんの気持ちを話すことができる。	うなぎを首にまきつけたままにげるごんの気持ちを考える。	あわてて逃げる気持ちをとらえることができるように、うなぎを首にまきつけたまま逃げる様子を動作化して考える。	【読】うなぎを首にまきつけたままにげるごんの気持ちを話している。
	5	そう式を見た後のごんの気持ちを話すことができる。	そう式を見た後のごんの気持ちを考える。	そう式後のごんの気持ちをとらえることができるように、ごんの様子を動作化したり、ごんが兵十にしたことを教師の問いかけにより考えたりする。	【読】そう式を見た後のごんの気持ちを話している。
	6	いわしを投げこんだ時のごんの気持ちを話すことができる。	いわしを投げこんだ時のごんの気持ちを考える。	つぐないのためにいいことをしたという気持ちをとらえることができるように、いわしをつかんで投げこむ様子を動作化して考える。	【読】いわしを投げこんだ時のごんの気持ちを話している。
	7	毎日、くりやまつたけを持ってくるごんの気持ちを話すことができる。	毎日、くりやまつたけを持ってくるごんの気持ちを考える。	つぐないの気持ちをとらえることができるように、くりやまつたけを置く様子を動作化して、いわしを投げこんだ時と比べて考える。	【読】毎日、くりやまつたけを持ってくるごんの気持ちを話している。
	8・9本時	二人の後をつけていくごんの気持ちを話すことができる。	二人の後をつけていくごんの気持ちを考える。	二人の会話が気になることや不満に思っている気持を捉えることができるように、教師は加助と兵十の様子を動作化し、児童はごんの様子を動作化して考える。	【読】二人の会話を聞きながら、後をつけていくごんの気持ちを話している。

	10	うなずいた時のごんの気持ちを話すことができる。	うなずいた時のごんの気持ちを考える。	ごんがうなずいた時の気持ちをとらえることができるように、教師と児童で兵十とごんの様子を動作化して考える。	【読】うなずいた時のごんの気持ちを話している。
ふかめる	11	お話を教える練習をする。	お話を教える練習をする。	発表する練習を集中してできるように教師と交代でしたり、時間を決めたりして見通しを持たせながら行う。	【関】1年生に「ごんぎつね」のお話を教えたいという思いを持って練習している。
	12	「ごんぎつね」のお話を発表することができる。	「ごんぎつね」のお話を発表する。	意欲を持ってできるように、学習計画を見直し発表がゴールであることを確認してから行う。 挿絵を紙芝居のように教師がめくり、児童はペープサートを動かしながら発表する。	【読】ごんのしたことや気持ちを挿絵に合わせて、発表している。

5　本時の指導

（1）　目標

二人の後をつけていくごんの気持ちを話すことができる。

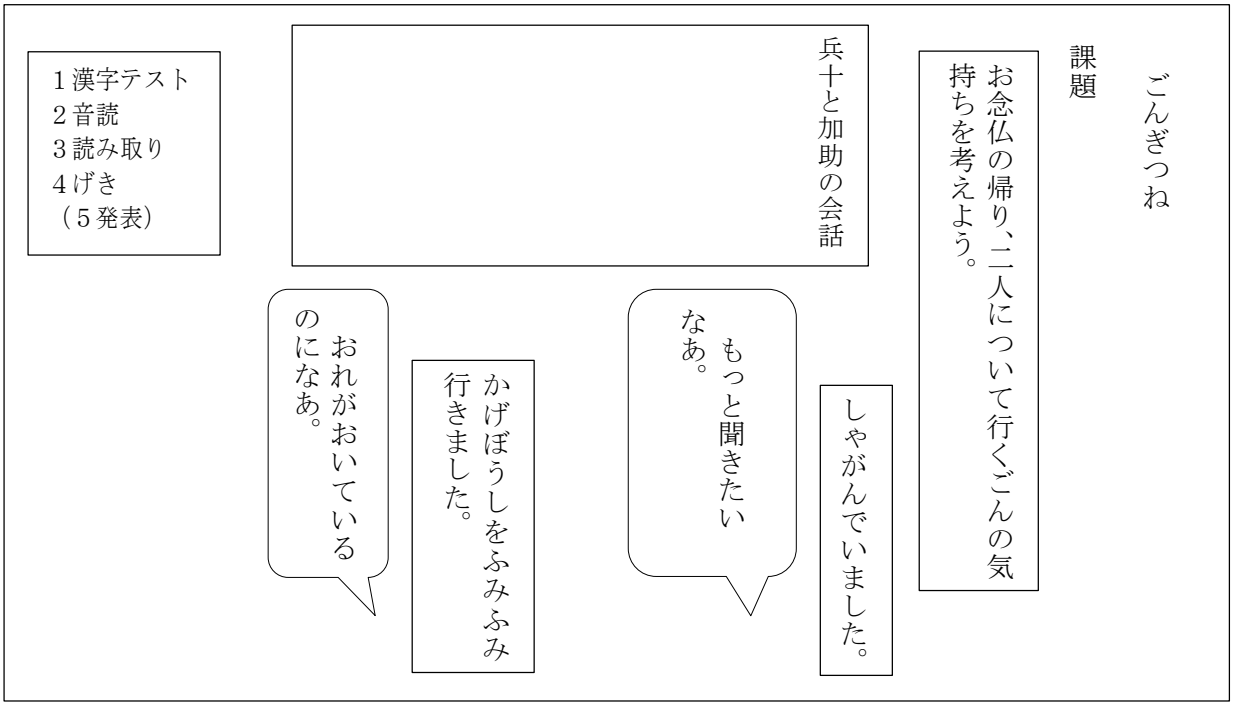
（2）　評価規準と具体の評価規準

評価規準	評価方法	具体の評価基準	具体的な支援
二人の会話を聞きながら、後をつけていくごんの気持ちを話している。	発表	二人の会話を聞きながら、期待する気持ちと不満に思っている気持ちを発表している。	お念仏がすむまでしゃがんでいるところと、かげぼうしをふみふみ行くところを動作化する中で、なぜそのような行動をしたか前時と比べながら考えさせる。 兵十と加助の会話を教師がすることで、ごんの不満な気持ちに気づかせる。 ふきだしに書かせてから発表させる。

（3）　展開

段階	学習内容	◇主な支援 ・期待される児童の反応	・指導上の留意点 《評価》
導入 1	・漢字テスト（5問） 1　前時までの学習を確認する。	ばらばらの挿絵をごんのしたことと気持ちを確かめながら、お	

0分		話の順に並べさせ、前時までの振り返りの一助にする。	
展開30分	2　本時の課題を確認する。 お念仏の帰り、二人について行くごんの気持ちを考えよう。 ・音読をする。 3　ごんのしたことを確かめる。 4　劇をしながら気持ちを考える。 5　ふきだしに気持ちを書き、発表する。 6　挿絵とペープサートで学習のまとめをする。	◇ごんが主語の文を色分けし、文末を考えさせることによりしたことを見つけやすいようにする。 ・しゃがんでいました。 ・ふみふみ行きました。 ◇いつまでしゃがんでいたか動作化の中で問いかけ、聞きたい気持ちに気づかせる。 ・もっと聞きたいなあ。 ◇兵十と加助の会話を教師がしながら児童がごんの動作化をすることで、不満な気持ちに気づかせる。 ・おれが置いているのになあ。 ◇メモ振りかえらせ、ふきだしに書くときの助けにさせる。 ・ごんが兵十と加助の帰りをしゃがんで待っています。もっと聞きたいなあと思っています。 ・ごんが兵十と加助の話を聞きながら、兵十のかげぼうしをふみふみ歩いています。おれがくりやまつたけをおいているのになあと思っています。	・前時までの学習を学習計画の掲示で振り返らせる。 ・ごんが主語の文に色を付けさせる。 ・「したこと」と「思ったこと」の文の色を別にする。 ・前時は、自分のことを話していてうれしい気持ちだったことを振りかえらせておく。 ・動作化の中で児童が話した気持ちを短冊にメモしておき、ふきだしに書くときの助けにする。 ・ふきだしのワークシート。 《評価》二人の会話を聞きながら、期待する気持ちと不満に思っている気持ちを発表している。
終末5分	7　次時の学習について確かめる。 8　お楽しみの発表をする。	・裏返しになっている「うれしかったこと」「朝ご飯のメニュー」等の話す事柄のカードを引かせ、	・学習計画の掲示で確かめさせる。

		その事柄について発表させる。	

（４） 板書計画